

Aテーブル

テーブルリーダー 松本 憲旺
書記 宮田 陽太
(大阪御堂筋本町 RAC)

●IR と万博誘致、御堂筋緑化について

「IR にて雇用創出の期待が持てる」という前向きな意見と IR と同時に語られるカジノ依存については日本には昔から社会に溶け込んだギャンブルがたくさんあるため、それほど心配は必要ないのではないかという意見がでました。その一方で IR が他国での失敗事例もあるため慎重な意見も同数でました。

万博誘致については賛成多数で「若い人に経験してほしい」、「ロータリー・クラブとして協力できることがある」という意見が複数でました。1つのクラブで行うよりも複数のクラブや地区単位でまとまって動くことにより効果の大きい活動ができるとの意見もありました。

御堂筋については、緑化を進めるべきだという意見が複数でました。東京との差があることも語られ、緑化は景観の良さと安心安全な街づくりにつながるといことで特に反対意見はありませんでした。

Bテーブル

テーブルリーダー 岡田 俊作
書記 鍵田 明子 (東京 RAC)

当テーブルでは、まず本日の講演の感想について各人が発表しました。その中で、2つの意見が出ました。

- ① 大阪を活気づけていくために、自分自身も積極的に行動していきたい。NPO で宿泊施設を運営してる方は、海外からの宿泊者増加に向け今日の講演を聞き再決意されました。大阪に外国人の方が多く訪れる事で、インバウンドバブルが起き経済が潤うことは非常にプラスであると
考えてられる方が多いことをディスカッションを通し改めて知ることができました。
- ② 活性化に伴い発生する問題点への対応も同時進行で行う必要がある。との意

見も多く出ました。

ある方は、木材関係の事業を経営されている中で、業界では輸入から国産へ切り替わってるとのお話の中から、農村部、山畑が荒れている現状があり、大坂が栄えるのはいいことだけど共存が必要であるとの意見がありました。

急成長の裏で、急に成長しすぎることに對して大阪に住んでいる方々への配慮を忘れてはいけないとの意見が多く出ました。

結論として、活性化に対し個人個人が行動すること、それに伴い発生する課題に対し自治体や企業がしっかりと取組む必要があるとチームで出た意見です。

Cテーブル

テーブルリーダー 田 晴重
書記 出口 未樹
(大阪御堂筋本町 RAC)

本テーブルは、嘉名教授のいらっしゃるテーブルだった為、教授への質疑応答という形でお話を進めました。

御堂筋をメインストリートにする為に、考えられる問題点や、普段からの疑問についてディスカッションは白熱しました。

いくつかの問題点がでましたが、景観に関する問題が多くお話にあがりました。

「自転車に関する問題」

車道を逆走する自転車が多く、また不法駐輪もなくなり、ルール構築は今後の課題です。

現在、小学生を中心に子供への教育は始まっているそうです。

「大阪に緑が少ないという問題」

大阪の街が元々海であった地層の問題もあり、植物が育ちにくい背景があるそうです。

市有の土地が少ない為、民間の土地を緑化していく流れとなりそうです。

また、警察が安全を重視することから、人が集ることを嫌い、壁となっているそ

うです。

しかし、市民が求めることを実行するのが、本来の仕事であることから、「言い続ける」あきらめない姿勢が、今後の大阪やメインストリート御堂筋の運命に大きく影響しそうです。

Dテーブル

テーブルリーダー 高橋 勝彦
書記 八代 優
(大阪御堂筋本町 RAC)

Dテーブルでは、2025年の万博誘致に向けての都市開発について討議が行われました。

今後大阪が行うべき街づくりのひとつとして、まずインバウンドに対しての早急なインフラ整備の必要があります。具体案としましては自転車用道路を設けること、公共トイレの拡充（有料化の案も）、支払いの際のキャッシュレス化を徹底するなどの意見が挙げられました。その為には規制緩和の見直しも必要です。

観光地として発展していく為に、ナイトアミューズメントの充実化が挙げられ、IRのカジノ面積が全体の3%未満であることに懸念の声もありました。

大阪の街を世界の先を行く観光都市にする為には大阪人の他者に対する寛容な心をより強固なものとし、子ども達には学校・地域教育の時点から「おもてなし」の心を育む取り組みをするべきとの話し合いもなされました。

日本の歴史文化財の75%を保有する関西の、その中心にある大阪ですから、私たちの大阪は世界に引けを取らない観光都市になり得るのです。

Eテーブル

テーブルリーダー 鍵田 秀明
書記 西尾 真一
(大阪御堂筋本町 RAC)

E テーブルでは大阪の活性化への取り組みについて以下の意見が出ました。
鉄道の整備と沿線の活用やホテルの強化、緑地の増加。(東京に比べて大阪は緑が少ない)

見る観光から体験型を増やしていく等の意見がありました。

ロータリークラブとしてはどうするか。

「医療ツーリズム」はどうか？ポリオの次のプログラムとして、病気で苦しんでいる小さな子供を海外から日本へ連れてきて、日本の先進医療で治療できないかとのご意見であったり、海外のロータリアン等富裕層の方々に日本の人間ドックを受けてもらい予防医療を行ってもらおう。

課題としてもし病気が見つかったときはどうするか等が挙げられた。今後も議論が必要である。

また違うご意見としては、ロータリークラブの強みとして国際化に対応できる一流の子供を育てることが重要であるというご意見がでました。

F テーブル

テーブルリーダー 仁科 真二
書記 尾田木 雄亮
(大阪御堂筋本町 RAC)

本日のロータリーデーでは、2025年の大阪万博の誘致や御堂筋の開発、夢洲でのカジノ誘致を含めたIRの構想など様々な話を聞くことが出来た。これらを別個で捉えるのではなく、大阪ひいては日本の更なる繁栄のために必要なものとして繋がっているものとする。1つ1つの効果を高めるためにも一過性で終わらせないためにも、世界の各都市を参考にしながら、将来の大阪のまちづくりをするべきである。また、現在使い道のない夢洲を活用するためにも大阪万博誘致の成功は必ず必要となる。将来インテックス大阪が取り壊されることが決まっている中で、夢洲に新たな代替場所をつくるのが最適だと考えられる。これらすべてを成功させるためには、国民の盛り上がりが必要となる。現在日本はオリンピックや万博、IRなどの誘致に関して賛否があるが、日本の繁栄には以上の事柄に力を入れ、そして成功させる必要がある。

G テーブル

テーブルリーダー 坂中 良郎
書記 良元 剛
(大阪御堂筋本町 RAC)

ディスカッションを行ったテーマは2つ

① 2025年大阪万博誘致への盛り上げについて

② 統合型リゾート (IR) カジノなどについて

まず①のディスカッションの冒頭で、本当に大阪万博をしたいのだろうか？

という事が議題に上がりました。

例えば、東京オリンピックでは、安倍首相が先頭に立ってPRを行ったり、国を挙げてアピールをしていましたが、現在の大阪万博2025では有名な人や、発言力のある人がPRはしていませんし、国を挙げてのアピールも少ないと思う。各個人、企業がPRをしていても、自己満足で終わってしまっているのでは無いか？それならもっと団結し、発言力のある人や、有名な人にPRしてもらう事が大切じゃないか？という結果になりました。

続きまして、②のディスカッションで、IRは本当に必要なのか？

IRに対しての理解が不十分で、あまり良くないイメージがある。

IR=カジノというイメージが強く、カジノは依存性がある為良くない。

リゾート施設なのに、何をしても行政が厳しい。

例えば夜22:00以降に屋台などお店を開ける。

とゆうような事に対しても、消極的で防犯上の理由などで許可が出ない。

この様な点をもっと説明していき、理解を深めてもらい解決しないとイケない。

また、IRは日本人、アジア以外の人々に目を向け、短期的ではなく、長期的な目で考えてみる。

千人クラスの国際会議ができるスペースを作り、世界中の人々を呼ぶ。

それをメインに考え、プラスαとして、リゾート施設、高度な医療などを充実させて長期的な滞在もしてもらえる様な形を取っていけば良いのではないのか？

そうなっていけば経済がより良くなるので、IRは必要。という結果になりました。

最後に、個々が大阪万博をやるんだと言う強い気持ちを持ち、常に大阪を盛り上げる。『儲かりませ！』と、言葉に出していく事も大切だと言う話になりました。

Hテーブル

テーブルリーダー 武島 秀吉
書記 山田 拓也（大阪南 RAC）

Hテーブルでは武島様の進行のもと各テーマ満遍なくディスカッションをおこないました。

・外国人観光客について

景気や経済の面では外国人観光客の増加は素晴らしいことだが、地域住民の方に負担をかけているかもしれないことを意識しないといけない。観光客の方に大阪に来てよかったと思われるようにすることが今後さらに外国人観光客を増やすことにつながる。そのためには地域住民の方の観光客によるストレスや負担を減らす取り組みが必要と思う。

・大阪と東京の比較

大阪と東京との比較が話題になりました。東京と比べ大阪は街中に緑が少ないように感じる。大阪には道頓堀のような水辺に近いエリアもあるので水都としての景観を取り戻したい。大阪にはグランフロントやスカイビルのようなランドマークになるような建造物もあり映画などの映像で非常に映えるスポットがたくさんあるので画面を通して大阪をもっとアピールできる。各自専門分野の視点を中心に大阪の現在と未来について御意見をいただきました。

Iテーブル

テーブルリーダー 富田 進
書記 中山 和樹（大阪南 RAC）

Iテーブルでは「より大阪が活性化するために」と題して議論を行いました。現状の大阪が抱える問題としては、まだまだ外国語表記の案内板やお店のメニューが少ないという点や、外国人を誘致するためには東京くらい公共交通機関のダイヤ交通網の充実が必要だという声が多く挙がりました。しかし一方でこ

ここ数年では外国人を積極的に雇用する企業が増えてきたという点や、実際に車イスに乗っている方からは東京よりも大阪のほうが街のバリアフリー化が進んでいて、周りの人々も協力的であると言った意見が出ました。

来年の G20 会議、さらに 2025 年の万博誘致に向け、大阪はますます成長していかなければなりません。今後の目標としては、大阪らしさを残しつつも、Wi-fi 環境の整備や、交通機関のより一層の充実、そして何より異文化の人々に対して寛容な心とウェルカムの精神を持ち、一人ひとりが「変わっていくんだ」という気持ちを持つことが大事だという結論に至りました。

J テーブル

テーブルリーダー 安藤 康雄
書記 生島 康平 (大阪南 RAC)

J テーブルでは、「大阪万博 2025 誘致に向けて」をテーマにディスカッションを行いました。大阪で万博を開催するために、何ができるのか、何が必要なのかについて話し合いました。

外国人のインバウンドに対する満足度を上げる施策としては、IR (総合型リゾート) は欠かせない要素であることは間違いないが、万博が決まってから盛り上がりは遅く、そもそもその熱量では大阪誘致に決まらないことが危惧されるという意見もでておりました。

街の活性化という点にも通じるところで、大阪万博の中身は将来を作っていく若者が考えていくべきであり、2025 年にその世代を担うであろう今の高校生や大学生がどうしたいのか、どのように盛り上げていきたいのか、という若者の意見をしっかりと反映させ、リーダーシップを引き出していくことが今の我々に必要なことであり、万博の誘致を決め、街をより活性化させていくことにつながるのではないかという話し合いになりました。

K テーブル

テーブルリーダー 安部 潤一

テーマは、「大阪の活性化」についてです。

- ・大阪に人を集めるのは大事だが、もう少し「テーマ」「コンセプト」「ターゲット」を絞るべきだ。
- ・実現に向けての「財政的」な裏付けがない。
- ・東京は「予算」が大きいので、(コスト面も含めて)プロジェクトが通りやすい。
- ・建築、デザイン、ゼネコン、何もかも売り上げの大半は「東京」。
- ・上場企業がすべて「東京」に行ってしまう → 大阪に、大企業、上場企業の誘致は必須。
- ・関西圏の大学は、郊外にばかりある。これでは中心部の消費も雇用も伸びない。
→ 大学を都心に持ってくる。
- ・新しいものを作ることも大事だが、大阪の歴史的遺産をもっとアピールして、観光に活用すべき。
- ・「東京」をライバル視する必要はないと思う。
- ・神戸はインバウンドの効果が少ない。もっと大阪を通じて活性化できると思う。

Lテーブル

テーブルリーダー 鎌田 誠
書記 鈴木 正利

Lテーブルでは、「外国人観光客を更に増やすには？」をテーマにディスカッションが活発に行われました。

大阪はアジア系観光客が多く今後も伸びを確保しつつ、加えて欧米系観光客も惹きつけることも重要である。

そのためには、ハード、ソフト両面の充実を目指していくべき。

- ① ハード面では、トイレ増設と美化（コンビニでは観光客に貸さない）、交通機関の利便性向上、コンドミニアム建設（宿泊先で過ごし方の多様化に対応）等の対応。
- ② ソフト面では、夜間のエンターテインメント施設の充実（夜間の過ごし方に困っている観光客が多い）

外国人労働者の受入緩和（人手不足、外国後対応の即戦力）、スーツケース無での回遊啓蒙（盗難防止の観点から持ち歩いている）、文化施設の充実（大阪能楽館廃止など反する動き）も必要。

- ③ その他、外国人観光客へのマナー教育、買い物時のキャッシュレス化等が話題としてあがりました。

ロータリー活動として、職業奉仕の活動として、上記の課題改善に寄与していくことで纏まりました。

Mテーブル

テーブルリーダー 丸尾 照二
書記 北野 蓉子

先ず自己紹介を、という事ではじめたところ、同時にテーマに対する活発な意見が出た。

- ・作られた当時は空港の如しと思われていた御堂筋は、現在自動車が減少し、それに反し自転車が増加してきた。道路拡大と整備により、そこに駐車するスペースをつくることも考えに入れる。
- ・今日まで発展した以上に、外国人の来阪が増え、その点東京よりホテルが高騰し不足するほどになったが、G20も迎える今後、来阪者に満足したものを提供できるのは何か？
- ・震災後のブルーシートもなくすという、「やるべきことはやる」という大阪人の意気を示さねばならない。
- ・船場のような町、そして大阪城を持つ城下町、のような特殊なものも多い観光立国プラスαの大阪で、元気でよい会社を成長させる。
- ・残業もなく儲けをうみだすという企業としての理想を追求することで、より活性化を計りたい。

…で時間切れとなりました。

Nテーブル

テーブルリーダー 福岡 英一
書記 久松 秀雄

■ディスカッション内容

大阪全体を盛り上げるために、御堂筋界限のみならず近隣地域との連携を強化していく必要がある。例えば天王寺地区にはハルカスが出来たことから地域が非常に良くなり、地元の方々の地域愛が深まっている。また近畿2府4県で唯一世界遺産の無い大阪において堺地区での世界遺産登録を実現することによって、大阪全体の世界的知名度をあげることに寄与することができる。御堂筋界限を中心に大阪全体の観光的魅力をあげることでさらなる活性化を図ることが可能となる。また長いスパンではあるが、御堂筋の道路空間再編が具現化していくのは非常に興味深い。

しかし、急増する来日観光客において負の面もあることを認識し、深掘りする必要もある。

地元住民、老舗店舗の方々と来日観光客とのバランスをしっかりと取りながら、古き良き大阪伝統の商品や日本人特有のモノづくりの良さなどを前面に押し出して、観光一本足にならないよう本質的な大阪の底上げを考える必要がある。

Oテーブル

テーブルリーダー 平井 満
書記 梁 佳彬

大阪の万博誘致、I R、インバウンド外国人観光客を更に増やすとともに、現在起こっている問題、その問題に対してどのような解決法をするのか、外国人観光客により喜んで滞在してもらうには、何をしてあげばいいのかについて討論をしました。

- ① 繁華街のごみ問題：しっかり宣伝を徹底する。旅行社を通したり、空港などで宣伝し、ゴミを持ち帰るように教育する。
- ② 民泊客の騒音問題：観光客の増加につれ、ホテル不足もあり、民泊客が普及してきた。管理組合や管理人が民泊客にマナーを守ってもらうように工夫する。

- ③ 店側、店員が英語（共通語）を交流や意思疎通のために勉強する。
- ④ 外国人観光客を更に増やすには、看板、案内表示などをもっと外国語にする。

Pテーブル

テーブルリーダー 岸 孝太郎
書記 横山 倫子

- 2025年大阪万博の認知度を上げる。
- 東京が何でも日本一と言われることが多く、大阪が日本一と言われるようにならないと、外国人が来なくなる。
- 大阪の文化（歌舞伎・文楽など）を観に来て欲しい。
- 大阪の交通事情が遅れている。府と市が上手くいっていないので、鉄道網が悪い。
- 大阪の経済を良くして（大阪万博やカジノ）、交通ルールやマナーも改善していく。

Qテーブル

テーブルリーダー 橋本 修
書記 横見 祐二

- 観光客が増えていくことを願うが、海外に比べて、Wi-Fi環境が良くない。海外では非常に使いやすい環境となっているので、観光客がもっとWi-Fiを利用しやすい環境作りとすることが必要だと。
- 大阪にIRが来て欲しい。しかしながらIRについてはアピールばかりで、もっと中身の説明、具体的に周辺の設備などアピールしていくとより理解が深まるのではという意見がありました。
- 大阪に万博が来て欲しい。万博が来ることにより、御堂筋の整備なども含めて色んなことが進んでいくと思う。
- 外国人観光客が増えすぎて、大阪が汚れてきたような気がする。マナーなど、街のクリーンさなど。短期的に観光客を呼び込むというよりは、長期的な視点で取り組んでいかないと好きな大阪ではなくなるような気がする。
- 大きな集まりなどは、東京ですることが多く、大阪でもっとできるようになら

ないか。

省庁など、大阪に持ってくることは出来ないかと。東京で一点集中になっている。大阪はアピールが足りないのではないのか。

- ・日本は海外に比べて衛生面、治安が非常に高い。そのことをより生かしてやっていくことが必要。

以上の意見が出ました。

Rテーブル

テーブルリーダー 坂田 哲男
書記 木村 貴広

- 何が残るか、成長を維持できるか、東京にないものを考え出さなければならぬ。
- 大阪の街は、昔に比べ良くなっている。
周辺の町興し、良い空間作りが必要
- 文化、景観、緑が必要。
- 御堂筋だけでなく、その周辺にも整備が必要。
- 大阪の文化は、東京、地元宝塚から比較して素晴らしい。
- 歩道拡張について、高齢化社会の中、歩行困難な人達のことも考えて欲しい。
例えば、歩く歩道を梅田から難波までとか。
- 大阪本社の会社が激減。幹線道路、インフラ整備が必要。

テーブル総括

高齢者向けのインフラ整備が必要。

文化、景観、緑がある周辺の町興しが必要。